

感染症の流行による観光動機の変化

本論では、「地元又は県内(近隣)への宿泊観光や日帰り観光を行うマイクロツーリズムは、都市県よりも地方県のほうが定着している」と仮定した。1章では、コロナ禍で2020年の日本人の国内旅行状況から、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響でコロナ禍の2020年では観光動向に変化があったことが分かった。2章では、各都道府県の観光入込客数を比較し、一部の都道府県でマイクロツーリズムに類似する地元又は県内(近隣)への観光が定着していること、また、一部の都道府県でマイクロツーリズムに類似する地元又は県内(近隣)へ観光スタイルが変化しているが分かった。3章では、インターネット調査から政令指定都市を有さない都道府県(地方県)のほうが、国内旅行に対して慎重であり、地元又は近隣への宿泊観光や日帰り観光(県内観光)を行っている人が多いということが分かった。以上から、コロナ禍の2020年は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で観光動向に変化があり、マイクロツーリズムに類似する地元又は県内(近隣)への宿泊観光や日帰り観光は、都市県よりも地方県のほうが定着していることが考えられる。